

第11回 全国史料ネット研究交流集会 in 神戸 開催概要

日時：2025年1月12日（日） 13:30～17:20
1月13日（月・祝）10:00～15:00

会場：神戸大学統合研究拠点コンベンションホール
（兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番48）
対面＋オンライン（ハイフレックス方式）

【主催】第11回全国史料ネット研究交流集会実行委員会

人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用
機関ネットワーク事業」

【共催】科学研究費補助金特別推進研究（課題番号：19H05457）

「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」

（研究代表：奥村弘）

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

【後援】国立文化財機構文化財防災センター、あらいぐま明石、あらいぐま大阪、甲州史料調査会、NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク、山形文化遺産防災ネットワーク、そうま歴史資料保存ネットワーク、ふくしま歴史資料保存ネットワーク、茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク、とちぎ歴史資料ネットワーク、那須資料ネット、群馬歴史資料継承ネットワーク、NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん、北総地域資料・文化財保全ネットワーク、千葉歴史・自然資料救済ネットワーク、地域史料保全有志の会、信州資料ネット、新潟歴史資料救済ネットワーク、いしかわ歴史資料保全ネットワーク、東海歴史資料保全ネットワーク、歴史資料保全ネット・わかやま、山陰歴史資料ネットワーク、岡山史料ネット、広島歴史資料ネットワーク、歴史資料ネットワーク・徳島、愛媛資料ネット、高知地域資料保存ネットワーク、熊本被災史料レスキューネットワーク、宮崎歴史資料ネットワーク、鹿児島歴史資料防災ネットワーク



歴史文化資料保全の大学・
共同利用機関ネットワーク事業

Inter-University Research Institute Network Project to Preserve and Succeed Historical and Cultural Resources

【開催趣旨】

阪神・淡路大震災から30年が経とうとしています。この大災害を契機に発足した歴史資料ネットワーク（神戸史料ネット）を端緒として、資料ネット活動は全国へと広がり、各地で地域の歴史文化の保存・継承のための実践が展開されるようになりました。2015年に始まる資料ネット間の交流を狙いとした「全国史料ネット研究交流集会」は、いまや10回の開催を数えるにいたり、歴史文化や資料保全に関心を持つ多様な立場の人々が集う場へと成長しました。さらに、2020年に設立した文化財防災センターによって、全国規模での文化財保護体制が構築されつつあります。これらの動きは、地域の歴史文化や文化財を次世代に引き継ぐ重要性が、より多くの人々に認識されるようになったことを意味しており、30年間で大きな変化と評価してよいでしょう。

一方、歴史資料ネットワークはこの間、被災史料の保全活動を通じて地域の歴史文化や歴史資料にかかわる課題を明らかにし、それを関係者だけでなく社会全体で共有するための取り組みを続けてきました。史料保存の活動の輪は着実に広がりを見せていますが、これまで提起してきた課題はどの程度社会に浸透したのでしょうか。本集会では、歴史資料ネットワーク30年の歩みを振り返り、被災地で発見された課題を整理・検証し、あらためて地域の歴史文化や歴史資料の継承を社会全体で共有することの必要性を参加者とともに考えます。特に、活動の担い手が世代交代を迎えている現在、この問いを明確にしていくことは、今後の資料ネットの役割や運動の方向性を展望する上で重要な意味を持ちます。本集会での議論や交流が次世代の活動へとつながることを期待します。

第11回全国史料ネット研究交流集会 in 神戸 プログラム

1日目 1月12日(日)

13:00 開場

13:30 開会

総合司会：仲田侑加（歴史資料ネットワーク）

13:30～13:45

開会挨拶：木部暢子（大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長）

奥村弘（第11回全国史料ネット研究交流集会実行委員長／歴史資料ネットワーク代表委員）

13:45～13:50

趣旨説明：跡部史浩（歴史資料ネットワーク）

13:50～15:50

第1セッション：阪神・淡路大震災から30年 地域歴史遺産の現在^{いま} …………… 4頁

登壇：小野塚航一（歴史資料ネットワーク／国立歴史民俗博物館）

辻川敦（あまがさきアーカイブズ）

季村範江（震災・まちのアーカイブ）

百濟正人（兵庫県立御影高等学校）

辰巳楽々（兵庫県立大学環境人間学部）

松岡健（神戸新聞社）

司会：天野真志（国立歴史民俗博物館）

戸部愛菜（歴史資料ネットワーク）

16:00～17:00

第1セッション質疑応答

17:00～17:20

コメント：藤田明良（歴史資料ネットワーク副代表）

2 日目 1 月 13 日 (月・祝)

9:30 開場

10:00 ~ 12:30

第 2 セッション：水損資料対応の 20 年を振り返る 7 頁

- 登壇：藤木透（佐用町教育委員会）
下向井祐子（広島県立文書館）
篠原佳代子（あらいぐま大阪）
田中睦美（あらいぐま大阪）
中南晶一（あらいぐま明石）
北村美香（大阪市立自然史博物館）
板垣貴志（山陰歴史資料ネットワーク）
松下正和（歴史資料ネットワーク）
河野未央（歴史資料ネットワーク）
司会：加藤明恵（歴史資料ネットワーク）
小野塚航一（歴史資料ネットワーク／国立歴史民俗博物館）

12:30 ~ 13:30

ポスターセッション

13:30 ~ 13:50

総括：奥村弘（* 2 日間の総括担当）

13:50 ~ 14:50

総合討論 11 頁

- 司会：中野賢治（山梨県立博物館）
川内淳史（NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク）

14:50 ~ 15:00

- 閉会挨拶：若尾政希（大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事／一橋大学大学院特任教授）
大国正美（歴史資料ネットワーク）

15:00 閉会

第1セッション：阪神・淡路大震災から30年 地域歴史遺産の現在^{いま}

【趣旨】

阪神・淡路大震災を契機に発足した歴史資料ネットワーク（神戸史料ネット）の30年にわたる活動を振り返り、被災史料保全活動を通じて明らかとなった地域の歴史文化や歴史資料に関する課題を整理・検証する。

また、阪神地域を中心に続けられてきた資料保全や震災の記録・記憶の継承にかかわる他団体の取り組みを踏まえ、地域の歴史文化や歴史資料の重要性を再確認するとともに、それらをどのように広め、社会全体で共有していくかについて議論を深める。

【登壇者・司会者】

小野塚航一（歴史資料ネットワーク／国立歴史民俗博物館）

辻川敦（あまがさきアーカイブズ）

季村範江（震災・まちのアーカイブ）

百濟正人（兵庫県立御影高等学校）

辰巳楽々（兵庫県立大学環境人間学部）

松岡健（神戸新聞社）

天野真志（国立歴史民俗博物館）

戸部愛菜（歴史資料ネットワーク）

【コメンテータープロフィール】

藤田明良（ふじた・あきよし）

1959年新潟県上越市高田生まれ。天理大学教授。

専門：日本中世史、東アジア海域史。

共著に『歴史のなかの神戸と平家：地域再生へのメッセージ』神戸新聞総合出版センター

1999年、論文に「東アジアの媽祖信仰と日本の船玉神信仰」『国立歴史民俗博物館研究報告 223』2021年など。1995年2月に阪神大震災対策歴史学会連絡会（後の歴史資料ネットワーク）事務局長、2003年5月から歴史資料ネットワーク副代表。

登壇者・司会者プロフィール

小野塚航一（おのづか・こういち）

歴史資料ネットワーク／人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員・国立歴史民俗博物館特任准教授。1985年東京都生まれ、茨城県つくば市育ち。

専門：日本中世史。

2007年の能登半島地震で資料レスキューにはじめて参加。その後、歴史資料ネットワークの活動に加わる。事務局員を経て、2021年より事務局長（7代目）。

辻川敦（つじかわ・あつし）

尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ職員。全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）会長。1960年京都府舞鶴市生まれ。

専門：アーカイブズ学、日本近現代史。

尼崎市立地域研究史料館長を経て現職。主要著作は『神戸～尼崎海辺の歴史』（共編著、神戸新聞総合出版センター、2012年）、論文「地域文書館論」（神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』収録、岩田書院、2013年）など。

季村範江（きむら・のりえ）

1948年静岡市生まれ。主婦。神戸市在住。

阪神・淡路大震災に遭遇、鷹取中学校でボランティア活動を始める。「震災・活動記録室」を経て、現在「震災・まちのアーカイブ」代表。

百濟正人（くだら・まさと）

兵庫県立御影高等学校教諭。兵庫県伊丹市生まれ。

兵庫県の公立高校で勤務して15年目で、現任校では7年目。教科は、地歴・公民で、日本史探究・歴史総合の授業を担当しています。歴史資料ネットワークとは、本校の設定科目であるGS課題研究の授業で、私の担当講座の受講生徒への探究活動のサポートを通して、連携させていただいています。

辰巳楽々（たつみ・らら）

兵庫県立大学環境人間学部環境人間学科1年生。2006年神戸市生まれ、神戸育ち。

兵庫県立御影高等学校76回生総合人文コース（現：文理探究科）在学時に、課題研究での活動を通じて、歴史資料ネットワークの皆様と連携・ご協力いただき、御影地域のまち歩きイベントを事例として、地域歴史遺産の保存と活用について探究活動に取り組みました。

松岡健（まつおか・たけし）

神戸新聞社論説委員。1963年大阪府生まれ。

立命館大文学部卒。神戸新聞で社会部次長、姫路支社編集部長、文化部長、論説副委員長などを経て現職。社会部記者などとして阪神・淡路大震災の報道に携わった。著書に『ひと萌ゆる』（共著、神戸新聞総合出版センター、2001年）、論文に「村落の境界とその空間構造に関する一考察—京都市北区雲ヶ畑を事例として—」（立命館地理学4、1992年）など。

天野真志（あまの・まさし）

国立歴史民俗博物館・准教授。1981年島根県浜田市生まれ。

専門：日本近世・近代史、資料保存。

東北大学災害科学国際研究所助教などを経て現職。地域歴史資料の保存・継承に向けた取り組みを通して、各地域における歴史文化と人びととの関わりについて考えている。主な著書に『幕末の学問・思想と政治運動』（吉川弘文館、2021年）、『地域歴史文化継承ガイドブック』（共編著、文学通信、2022年）など。

戸部愛菜（とべ・あいな）

歴史資料ネットワーク事務局員。1998年、神奈川県生まれ。

専門：日本近現代史。

2年前に修士課程を修了し、現在は自治体の防災部局で勤務しています。研究では、一方では近代の神戸市域の開発と行政機構の変遷、もう一方では都市化が進む地域における史跡と歴史の顕彰などを追いながら、震災資料など現在の史料保全にも関心を持っています。

第2セッション：水損資料対応の20年を振り返る

【趣旨】

歴史資料ネットワーク（神戸史料ネット）は、2004年の風水害対応を経て、地震で被災した資料だけでなく水損資料の保全活動にも取り組み始めた。それからおよそ20年。近年では台風や豪雨が毎年のように日本列島を襲うようになり、水損資料への対応は全国的な課題となっている。本セッションでは、歴史資料ネットワークによる水損資料対応の20年を振り返るとともに、水損資料の保全活動に携わったさまざまな立場の人々を交えて、その成果と課題を確認する。

【登壇者・司会者】

藤木透（佐用町教育委員会）

下向井祐子（広島県立文書館）

篠原佳代子（あらいぐま大阪）

田中睦美（あらいぐま大阪）

中南晶一（あらいぐま明石）

北村美香（大阪市立自然史博物館）

板垣貴志（山陰歴史資料ネットワーク）

松下正和（歴史資料ネットワーク）

河野未央（歴史資料ネットワーク）

加藤明恵（歴史資料ネットワーク）

小野塚航一（歴史資料ネットワーク／国立歴史民俗博物館）

【総括担当プロフィール】

奥村弘（おくむら・ひろし）

歴史資料ネットワーク代表委員／神戸大学理事・副学長。

専門：日本近現代史・歴史資料学。

阪神・淡路大震災後の歴史資料ネットワーク設立から現在に至るまで活動を続けている。

登壇者・司会者プロフィール

藤木透（ふじき・とおる）

佐用町教育委員会教育課文化財係・主査。1962年兵庫県佐用郡生まれ。

専門：日本考古学。

教育委員会事務局において文化財全般の保護行政に携わる。現在は再任用職員として発掘調査資料・古文書類の整理作業を行うほか、佐用郡地域史研究会の事務局として地域住民とともに地域資料の調査、保全活動を行っている。2009年の播磨北西部水害では史料ネットなどの支援を受けてレスキュー作業を経験。主な共編著に、『早瀬瓦窯跡』（佐用町教育委員会、2006）、「明治初期の因幡道と国界標柱」『ひょうご歴史研究室紀要第6号』（同研究室、2021）、『佐用郡地域史研究会紀要 第1号～7号』（同研究会、1997～2024）など。

下向井祐子（しもむかい・ゆうこ）

広島県立文書館／広島歴史資料ネットワーク

1958年広島県呉市生まれ。広島県立文書館で収蔵文書の整理や保存業務などを担当。認証アーキビスト。2018年西日本豪雨災害では、広島歴史資料ネットワークと協働して被災文書の保全活動に携わり、応急処置を終えた被災文書の整理や保存にも取り組んでいます。また、2023年度から活動を始めた文書館ボランティアの皆さんと一緒に、古文書の整理や被災した屏風の下張り文書の剥離作業なども行っています。

篠原佳代子（しのはら・かよこ）

あらいぐま大阪 共同代表理事。

以前より防災に興味を持っていた折、

2016年 熊本地震の際に本格的に災害ボランティア活動を開始。

2018年 平成30年7月豪雨災害にて岡山県倉敷市真備町へ支援活動に通っていた際に、写真洗浄活動に出会う。

2019年 あらいぐま大阪設立、大阪での写真洗浄活動を開始。以降、SNS等でボランティア参加者を募り、主に毎週日曜日の午後に写真洗浄活動を行う。

田中睦美（たなか・むつみ）

あらいぐま大阪 共同代表理事。

2003年より証券会社に勤務。2018年に鬱病になり、家族の勧めで災害ボランティアに参加しはじめる。2019年6月に岡山県倉敷市の写真洗浄ボランティア会場で篠原佳代子さんと出会い、大阪にて写真洗浄の任意団体「あらいぐま大阪」を篠原一夫さんと3人で立ち上げ、写真洗浄を中心としたボランティア活動を継続中。

中南晶一（なかみなみ・しょういち）

あらいぐま明石 代表。兵庫県神戸市灘区出身。

1995年の阪神・淡路大震災で被災。被災された方の心情に寄り添いたい思いから西日本豪雨災害に遭った倉敷市真備町に立ち上がった「あらいぐま岡山」を後方支援するアウトソーシング先のひとつとして明石市で5年前に「あらいぐま明石」を立ち上げ、運営代表を務める。被災写真は処置が早ければ早いほど劣化を防げること、写真洗浄は老若男女年齢問わず被災地に足を運ばずに行うことができるボランティア活動であることを多くの方に知っていただけるよう情報発信を行ったりイベントに出展する等の広報活動にも務めている。

北村美香（きたむら・みか）

合同会社結 creation 代表／大阪市立自然史博物館外来研究員。1975年京都市生まれ。

専門：博物館学（教育）。

国土交通省の広報施設や滋賀県平和祈念館で学芸員としての勤務を経て、合同会社結 creation 設立。高槻市立自然博物館で学芸員を兼務中。博物館学芸員としての経験を生かし、身近な環境や地域の文化を学ぶ取り組みなどをこれまで企画・実施してきました。地域の資料を、地域の方と一緒に守っていく取り組みとして、水損資料レスキューの初動行動についての勉強会を開催しています。主な共編著に、『図説河川災害と復興：自然環境の再生と持続社会』（朝倉書店、2024年）など。

板垣貴志（いたがき・たかし）

山陰歴史資料ネットワーク／島根大学法文学部准教授。1978年、島根県出雲市生まれ。

専門：日本近現代史。

神戸の史料ネット活動に参加して学び培ったものを、山陰で応用しています。最近、地域に残されてきた民間所在の近現代資料の調査・研究を住民参加で取り組んでいます。遊び心のある資料保存活動を目指しています。

松下正和（まつした・まさかず）

神戸大学地域連携推進本部・特命准教授。1971年大阪府大阪市生まれ。

専門：日本古代史、地域歴史資料学。

MIの時に大学寮で阪神・淡路大震災に遭い、以降被災歴史資料の保全活動に従事。2004年からは風水害による水損史料レスキューも開始。2009年より歴史資料ネットワーク副代表。現在の活動の三本柱は、被災資料応急処置法の研究や、自治会文書を活用したまちづくり、津波記念碑を用いた自主防災活動支援。主な共編著に、『水損史料を救う風水害からの歴史資料保全』（岩田書院、2009年）、『地域歴史文化のまもりかた 災害時の救済方法とその考え方』（文学通信、2024年）など。

河野未央（こうの・みお）

歴史資料ネットワーク／武庫川女子大学文学部歴史文化学科准教授。1976年愛媛県生まれ。

専門：日本近世史、アーカイブズ学。

神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター研究員、旧尼崎市立地域研究史料館、尼崎市立歴史博物館“あまがさきアーカイブズ”勤務などを経て、現職。国立公文書館認証アーキビスト。主な著書に松下正和・河野未央編『水損史料を救う—風水害からの歴史資料保全』（岩田書院、2009）、主な論文に「歴史資料をめぐる現代的諸問題—尼崎市を中心に」（『ヒストリア』300号、2023）など。

加藤明恵（かとう・あきえ）

歴史資料ネットワーク運営委員／大手前大学国際日本学部講師。1988年栃木県足利市生まれ。

専門：日本近世史。

神戸大学大学院人文学研究科特命助教を経て現職。2013年より事務局員として史料ネットに参加。主な著書・論文に『地域歴史文化継承ガイドブック』（天野真志・後藤真偏、分担執筆、文学通信、2022年）、「近世中後期在郷町運営における金融と領主財政」（『ヒストリア』295号、2022年）など。

総合討論

【総合司会者プロフィール】

仲田侑加（なかた・ゆか）

歴史資料ネットワーク運営委員／甲南大学非常勤講師。1990年、大阪府生まれ。

専門：日本近世史。

2017年から歴史資料ネットワークの活動に参加し、現在は東日本大震災や2018年台風21号により被災した史料の整理作業をボランティアの方々とともにしております。

【司会者プロフィール】

中野賢治（なかの・けんじ）

山梨県立博物館学芸員、山梨県文化振興・文化財課副主査。1979年長野県塩尻市生まれ。

専門：日本中世・近世史。

島根県古代文化センター研究員・島根県立古代出雲歴史博物館学芸員を経て2014年から現職。

【司会者プロフィール】

川内淳史（かわうち・あつし）

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク事務局長。1980年青森市生まれ。

東北大学災害科学国際研究所准教授。歴史資料ネットワーク運営委員、事務局長、副代表を経て、2021年より宮城資料ネット事務局長。資料ネット運動30年の歴史は、日本社会と歴史資料のあり方を確実に変えてきましたが、この運動をさらに進めていく上では多くの課題が存在します。阪神・淡路大震災から30年の今回の集会で、多くの方と議論をし、今後の方向性を考えていければと思っています。

ポスターセッション

団体名・タイトル ※タイトルの記載は主催者側で印刷をした団体に限ります

1：文化財防災センター

2：NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク

3：山形文化遺産防災ネットワーク

「山形文化遺産防災ネットワークの活動報告 2024（令和6）年」

4：ふくしま歴史資料保存ネットワーク

「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」

5：そうま歴史資料保存ネットワーク

「そうま歴史資料保存ネットワーク」

6：茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク

「2024 茨城史料ネットの活動から一常陸太田市文殊院「大般若経」の発見・公開」

7：とちぎ歴史資料ネットワーク

「とちぎ歴史資料ネットワーク」

8：那須資料ネット

「那須資料ネット」

9：群馬歴史資料継承ネットワーク

「群馬歴史資料継承ネットワーク」

10：千葉歴史・自然資料救済ネットワーク

11：北総地域資料・文化財保全ネットワーク

12：NPO 法人歴史資料継承機構じゃんびん

- 13：新潟歴史資料救済ネットワーク**
「新潟歴史資料救済ネットワーク」
- 14：いしかわ歴史資料保全ネットワーク**
「いしかわ歴史資料保全ネットワーク」
- 15：信州資料ネット**
「市民ボランティアと博物館 進化する連携と技術 2024」
- 16：東海歴史資料保全ネットワーク**
「東海歴史資料保全ネットワークの紹介」
- 17：甲州史料調査会**
「甲州史料調査会」
- 18：歴史資料保全ネット・わかやま**
「活動報告（歴史資料保全ネット・わかやま）」
- 19：山陰歴史資料ネットワーク**
「山陰歴史資料ネットワーク」
- 20：岡山史料ネット**
「2024 年度岡山史料ネットの活動について」
- 21：広島県立文書館**
- 22：歴史資料ネットワーク・徳島**
- 23：愛媛資料ネット**
「愛媛資料ネット 記録と記憶—歴史資料を守るために—」
- 24：高知地域資料保存ネットワーク**
「2024 年「高知資料ネット」の活動」
- 25：宮崎歴史資料ネットワーク**
「地域の資料ネットとして、継承をどう考えていくか」
- 26：鹿児島歴史資料防災ネットワーク**

ポスター発表者プロフィール

和泉田絢子（いずみた・あやこ）

国立文化財機構文化財防災センター研究員／（併）九州国立博物館学芸部博物館科学課研究員

1995年東京都生まれ。専門は保存科学。九州国立博物館学芸部博物館科学課アソシエイトフェローを経て2024年より現職。

「博物館の展示空間における空気環境の管理：展示ケースの換気システム導入および空気汚染物質の放散が少ない展示材料の検証」（『東風西声』19号、2024年）、「博物館の展示収蔵空間における空気環境の管理と対策事例について」（『東風西声』18号、2023年）など。

蝦名裕一（えびな・ゆういち）

NPO法人宮城歴史資料保全ネットワーク／東北大学災害科学国際研究所准教授

1975年、青森県青森市生まれ。専門は日本近世史。東北地方の史料保全活動と平行した歴史災害研究、最近では文化遺産の事前防災や災害時の被災推定に活用できる「文化遺産防災マップ」の開発に取り組んでいます。全国の史料ネットの皆さんにも是非活用してもらえればと考えています。

小幡圭祐（おばた・けいすけ）

山形文化遺産防災ネットワーク世話人／山形大学学術研究院准教授

1983年宮城県多賀城市生まれ。専門は歴史学（日本近現代史）・地域アーカイブズ学・サーカス学。2008年1月に発足した山形文化遺産防災ネットワーク（通称「山形ネット」）に2021年10月より世話人として参加。地域資料の保全活動に従事しつつ、地域の歴史の発掘やデジタルアーカイブ構築を担う。

阿部浩一（あべ・こういち）

ふくしま歴史資料保存ネットワーク代表、そうま歴史資料保存ネットワーク幹事／福島大学行政政策学類教授

1967年東京生まれ。専門は日本中世史。著書に『戦国期の徳政と地域社会』（吉川弘文館、2001年）、編著書に『ふくしま再生と歴史・文化遺産』（山川出版社、2013年）、責任編集に『大学的福島ガイド』（昭和堂、2024年）、論文に「ふくしまの現場から振り返る11年—できたこと、できなかったこと—」（『史学』92巻1・2号、2023年）など。

武内義明（たけうち・よしあき）

そうま歴史資料保存ネットワーク／福島県立相馬高等学校講師

1957年、福島県相馬市生まれ。県立高校の国語の教員として福島県内で勤務したのちに、常勤講師として勤務。東日本大震災、2021・2022年と続いた宮城・福島県沖地震によって歴史ある相馬の文化財が被害を受けている状況を受けて活動を立ち上げました。民間の任意団体としてスタートし2年目です。宮城ネット、ふくしまネットのご指導を受けながら活動を行っています。

品川完太（しながわ・かんた）

茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク（茨城史料ネット）学生幹事／茨城大学人文社会科学部3年生。2004年、広島県生まれ。

茨城大学進学とともに茨城県へ。大学では日本古代中世史を学んでいます。昨年度から茨城史料ネットの活動に参加。常陸太田市天神林町の文珠院から発見された経典類の整理作業に従事し、今年度夏には茨城大学図書館と常陸太田市郷土資料館での特別展示で展示解説を担当しました。

堀野周平（ほりの・しゅうへい）

とちぎ歴史資料ネットワーク運営委員／鹿沼市教育委員会事務局文化課主任主事

1988年千葉県生まれ。流山市、千葉県での勤務を経て2014年より現職。専門は日本近世・近代史。文化財保護行政の一環として地域に残る未指定の民間所在資料の調査・保存と活用をおこなっています。令和元年東日本台風の際は、被災した小学校資料のレスキューを実施しました。

山内れい（やまうち・れい）

那須資料ネット／那珂川町馬頭広重美術館学芸員

1991年千葉県佐倉市生まれ。専門は保存科学。2011年の東日本大震災時に、山形ネットにて被災資料のレスキュー活動に4年間参加。2024年発生の能登半島地震では4月、9月にレスキュー活動に参加しました。業務では浮世絵の展覧会企画をメインとしていますが、最近では幕末～明治期の浮世絵、版画の色材とその保存を科学的な視点から調査したいと考えています。

宮田圭祐（みやた・けいすけ）

群馬歴史資料継承ネットワーク運営委員／館林市役所都市建設部区画整理課主任

1987年群馬県板倉町生まれ。専門は日本考古学。館林市編さんセンター、文化財担当を経て今年度より現職。「ぐんま史料ネット」には設立時より参加し、2022年より運営委員。洪水多発地帯で育ったこともあり、防災文化財について特に関心があります。また併せて、「まちづくり」関連の計画と、文化財を如何にして関連づけていくかを思慮しています。

伊藤静香（いとう・しずか）

千葉歴史・自然資料救済ネットワーク／千葉大学大学院人文公共学府博士後期課程

東京都江東区出身。専門は日本近世史。授業のTAとして千葉資料ネットの資料整理に関わり、2023年より活動に本格的に参加。いくつかの資料整理に携わる中で、地域での資料保存のあり方について関心を持ち、勉強しながら活動に取り組んでいます。

相川陽一（あいかわ・よういち）

北総地域資料・文化財保全ネットワーク共同世話人／千葉歴史・自然資料救済ネットワーク会員

1977年、千葉県芝山町出身。専門は日本現代史。郷里で展開されてきた三里塚闘争(成田空港反対運動)にかかわる資料や証言の収集に学部生の頃から関わってきました。近年、成田空港の大規模な拡張工事が進んでおり、連動して複数の自治体にわたって村落の全戸移転が進んでいます。家屋、田畑、山林、神社、谷津田地形をはじめとする歴史的景観などが失われつつあります。この状況に対応するため、2024年より地域資料を保全する取り組みを共同で進めています。今大会では2024年夏に実施した緊急史料保全活動の概要と今後の見通しを報告させていただきます。各地の史料ネットのみならず、史料保全活動へのアドバイスを頂戴することができましたらありがたく存じます。

西村慎太郎（にしむら・しんたろう）

NPO法人歴史資料継承機構じゃんぴん代表理事

1974年、東京都青梅市生まれ。専門は歴史学。主な編著書は『大字誌両竹』1～6(蕃山房、2019年～2024年。泉田邦彦共編)、『「大字誌浪江町権現堂」のススメ』1・2(いりの舎、2021年・2023年)、『古文書解読事始め 福島県大熊町の古文書で学ぶくずし字入門』(蕃山房、2024年。大関真由美・菅井優士共編)ほか。

原直史（はら・なおふみ）

新潟歴史資料救済ネットワーク事務局長／新潟大学人文学部教授

1962年東京都生まれ。専門分野は日本近世史。2004年の新潟県中越地震に際して結成された新潟歴史資料救済ネットワークの事務局長を当初から勤め、2019年より事務局長。ボランティア史料調査団体「房総史料調査会」「越佐歴史資料調査会」の立ち上げにそれぞれ関わり、現在後者の世話人としても活動中。

上田長生（うへだ・ひさお）

いしかわ歴史資料保全ネットワーク事務局長／金沢大学人間社会研究域教授

能登半島地震を受けて、金沢学院大学文学部の本多俊彦氏と県内の若手学芸員の皆さんとで、いしかわ史料ネットを立ち上げ、文化財防災センターによるレスキューに参加しています。多くの歴史資料がレスキューされつつありますが、道路事情が悪いところや避難されているお家には、まだまだ歴史資料が残されています。夏から始めた被災資料の整理とともに、引き続きレスキューに取り組んでいきます。

原田和彦（はらだ・かずひこ）

信州資料ネット／長野市立博物館。

現在、長野市立博物館に勤務しています。令和元年に発生した洪水により水損した多くの資料を、地元ボランティアの皆さんと緊急処置を進めています。松代藩政を中心に勉強しています。学生時代は、日本古代史（平安時代）を研究してきました。

早川駿治（はやかわ・しゅんじ）

東海歴史資料保全ネットワーク

1989年、愛知県生まれ。名古屋大学で日本史を学んだのち、彦根城博物館にて学芸員として働き、現在は愛知大学総合郷土研究所等で史料整理のアルバイトをしています。今年度は時間的余裕が多くなり、愛知と石川の資料ネット活動にぼつぼつ参加しています。

吉成香澄（よしなり・かすみ）

甲州史料調査会事務局長／国文学研究資料館事務補佐員

1980年、埼玉県蕨市生まれ。専門は日本近世史。2003年から甲州史料調査会に参加し、2013年から事務局長をつとめる。

橋本唯子（はしもと・ゆいこ）

歴史資料保全ネット・わかやま代表／和歌山大学教育機構教養教育部門准教授

学芸員養成課程の講義を多く担当。石川県金沢市生まれ。共著『わかやまを学ぶ』（清文堂出版、2017）、共著『世界史とつながる日本史 紀伊半島からの視座』（ミネルヴァ書房、2018）などがある。

横田明日香（よこた・あすか）

岡山史料ネットサポート会員／岡山大学大学院 博士前期課程1年

今年から岡山大学へ来ました。専攻は日本近世史です。資料保存に関する経験や知識はまだ浅いですが、これから様々な活動を通して見識を深めていきたいです。

西向宏介（にしむかい・こうすけ）

広島県立文書館／広島歴史資料ネットワーク

1965年兵庫県姫路市生まれ。専門は日本近世史。認証アーキビスト。2018年西日本豪雨災害時に、広島県立文書館で文書レスキューを行い、広島歴史資料ネットワークと共に被災文書の保全活動に従事してきました。2023年度からは文書館ボランティアの活動を開始し、収蔵文書の整理を中心に様々な取り組みを行っています。

大本敬久（おおもと・たかひさ）

愛媛資料ネット委員／愛媛大学地域協働推進機構特定准教授・愛媛大学地域協働コーディネーター

1971年愛媛県生まれ。専門は民俗学・日本文化論。著書に『愛媛の民俗—冠婚葬祭編—』（愛媛県文化振興財団、2024年）他。災害史や防災文化の普及啓発を行う「四国防災八十八話・普及啓発研究会」メンバー。西予市「本家緒方蔵」、大洲市「古学堂」など、地域の文化遺産を活用した西日本豪雨からの復興支援活動を進めている。

水松啓太（みずまつ・けいた）

高知地域資料保存ネットワーク／高知県立高知城歴史博物館学芸員

1998年、岡山県倉敷市生まれ。専門は日本近世史。2018年の西日本豪雨では、愛媛資料ネットの一員として水損資料の保全活動に参加しました。高知資料ネット以外では、高知県の学校資料を考える会の活動にも取り組んでいます。現在、資料ネットの活動も紹介する企画展「高知の地震災害史—紡がれた記憶と記録—」（2025年3月20日～5月25日）を鋭意準備中です。

松山真弓（まつやま・まゆみ）

宮崎歴史資料ネットワーク／みやざきアートセンター

2015年から宮崎歴史資料ネットワークに参加し、細く長くの活動も10年となりました。関わってきた城ヶ崎・崎村邸の資料整理作業もゴールが見え、次のフェーズではどういう形で参加できるのかを考えるこの頃です。

伴野文亮（ともの・ふみあき）

鹿児島歴史資料防災ネットワーク／鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター特任准教授

静岡県静岡市（旧清水市）出身。2023年4月から鹿児島に居住し、島嶼部を含めた県内と県外に遺る鹿児島ゆかりの歴史資料の保全活動に取り組んでいます。また、静岡県立浜名高校史学部の外部講師を務めながら、高校生に一次資料の保全と活用の意義を教えています。今後も、地元の郷土研究会や自治体と連携しながら、地域の歴史文化を保全し未来に伝えるための枠組みづくりに積極的に携わっていきます。

第 11 回全国史料ネット研究交流集会実行委員会

- 委員長：奥村弘（歴史資料ネットワーク）
委員：藤田明良（歴史資料ネットワーク）
委員：松下正和（歴史資料ネットワーク）
委員：吉原大志（歴史資料ネットワーク）
委員：河野未央（歴史資料ネットワーク）
委員：仲田侑加（歴史資料ネットワーク）
委員：加藤明恵（歴史資料ネットワーク）
委員：吉川圭太（歴史資料ネットワーク）
委員：下箱石響（歴史資料ネットワーク）
委員：跡部史浩（歴史資料ネットワーク）
委員：栗原正東（歴史資料ネットワーク）
委員：谷内田智成（歴史資料ネットワーク）
委員：大国正美（歴史資料ネットワーク）
委員：戸部愛菜（歴史資料ネットワーク）
委員：出水清之介（歴史資料ネットワーク）
委員：井上舞（神戸大学）
委員：川内淳史（NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク）
委員：中野賢治（山梨県立博物館）
監事：板垣貴志（山陰歴史資料ネットワーク）

・人間文化研究機構 要覧



・予稿集・関連リンク & ポスター発表サイト



・歴史資料ネットワーク HP



・歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業 HP



第11回全国史料ネット研究交流集会 in 神戸 予稿集

発行日：2025年1月12日

編集：人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト

「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117 国立歴史民俗博物館
